



# ●+■⇒★▼● パートナーシップがつくる地域の未来!

## 使用済み小型家電に関する産・学・官・市民による新たな取り組み

### 中部都市鉱山研究会

新聞等のメディアで「都市鉱山」という言葉をよく目にします。なんだか街の地下を掘ると鉱石が出てくるのかと思ってしまうかもしれませんが実はそうではありません。携帯電話やデジタルカメラ等の小型家電製品等には、白金などの貴金属、銅などのベースメタル、レアメタルと総称される非常に希少な金属が天然の鉱石よりも高濃度で入っていて、こうした製品が人口の多い都市部に集まることから、鉱山になぞらえて「都市鉱山」と呼んでいるのです。

この金属資源の中で、携帯電話やデジタルカメラ、ハイブリッドカーのモーターなどに使われるレアメタルは、私達の生活や日本の産業に欠かせないものですが、その多くは中国など限られた産出国からの輸入に頼っています。しかし今後、世界的な需要の増大や産出国の資源ナショナリズムの台頭によって、価格の高騰や輸入自体が困難になることが予想されています。



環境デーなごや(H21.9.20)でのブース出展

小型家電は現在ほとんどが不燃ごみとして捨てられていて、リサイクルする仕組みがありません。そこで、小型家電をリサイクルする最適な仕組みを作ろうと、平成20年10月から名古屋大学の藤沢敏治教授を座長に迎え、名古屋市と津島市、(特)中部リサイクル運動市民の会、(財)名古屋産業科学研究所、(財)名古屋都市産業振興公社、関連企業などが集まり「中部都市鉱山研究会」を立ち上げて検討を進めてきました。

平成21年8月には、名古屋市と津島市が、モデル地域(使用済み小型家電からのレアメタルリサイクルモデル事業：環境省・経済産業省の連携事業)に選ばれました。当研究会



のメンバーである(特)市民のみなさんに小型家電の分解体験を中部リサイクル運動市民の会が運営するリサイクルステーションや、市内の一部スーパーなどで2月末まで回収を行う予定です。大切な資源を循環させる実証実験にみなさんも是非ご参加ください。

市民のみなさんに小型家電の分解体験を  
してもらいました。

**お問い合わせ：(特)中部リサイクル運動市民の会**

**052-659-1007**

## 「いのちのつながり」を伝える NPO法人 藤前干潟を守る会

「干潟」というと、「泥があつて汚い」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、「藤前干潟」は、ただの「泥たまり」ではありません。北から南へ10,000kmもの旅をする「渡り鳥」たちが休みエサを獲る場所。カニやゴカイ、アナジャコなど、鳥のエサにもなる無数の「生きものたち」が生きている場所。干潟で遊ぶ「子供たち」の歓声が響く場所。そして、このような「自然豊かな」、生きものの「いのちのつながり」が見える干潟が大都市名古屋にある。このことが実は最大の特徴かもしれません。

藤前干潟はかつて「ゴミの最終処分場」として埋立ての危機にありました。しかし多くの市民の活動によって守られたのです。このことも藤前干潟の大きな特徴と言えるでしょう。

私たち、NPO法人藤前干潟を守る会は、この藤前干潟で主に「環境学習」を行っています。潮のいい土日祝日に



干潟の学校

行なう観察会「干潟の学校」や、藤前干潟の魅力や大切さを多くの人に伝えるお祭り、「ふれあいデー」を中部地方環境事務所や名古屋市などとの協働のもと実施しています。

また、大量に漂着するゴミを拾う「クリーン大作戦」は、多くの市民グループ・企業などとの協働により実施しています。さらに、これらの活動の際に「干潟のガイド」として



クリーン大作戦

活躍する「ガタレンジャー」の養成講座も行なっています。5年前からは、藤前干潟にできた2つのセンター「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の管理・運営を中部地方環境事務所からの委託で行なっており、その活動の輪はさらに広がりました。

さらに、今年は、米ボーイング社からの助成のもと、「ガタレンジャー Jr.」という取り組みを始めました。子供たちに藤前干潟の自然を体感してもらい、その体験から得たものを多くの人たちに伝えていって欲しい。そんな子供を育成しよう。という取り組みです。

来年、2010年には、名古屋で「生物多様性条約COP10」が開催されます。大都市名古屋にありながら、『生物多様性』いのちのつながりが見える藤前干潟は、大きく注目されることでしょう。「生物多様性条約COP10」に向け、今後多くの人たちに藤前干潟から見える「いのちのつながり」、その「大切さ」を伝えていきたいと考えています。

**お問い合わせ：080-5157-2002**